



就職活動の時期が来ました。でも就職活動をしてみて、ものすごくイヤになったのです。あれ…自分は人の下で働くのが向いていないのではないかと直感的に思いはじめました。

とはいえ、働かないわけにもいきません。で、資格をとって自分でなにかをやるうー！と思っただけです。なんの資格があるかな？と思つて、本屋さんに行きました。資格コーナーにはパンフレットがいろいろ並んでいて、一番上が弁護士でした。でも、さすがに今から弁護士は難しいわな…と思つて、その下にあったのが司法書士。はじめて見る名前で司法書士って何だろうと思つたのですが、そのときに直感的にカッコイイと感じる自分がいました。今もそうなのですが、私の判断基準が「カッコイイかどうか？」誰に恥じることもなく、後ろめたさもなく、正々堂々とカッコよく生きているかどうかを私は大事にしているのです。調べてみると平均年収も1000万円を超えていて「ええやんか、司法書士になろうー！」と。周りが就職活動をする中で、資格の学校に通いはじめました。でも、その時点では知らなかったのです、司法書士試験の合格率はわずか3%だということ。

自分で何かを始めたなら 父を超えられるかも。

振りかえってみると、父へのライバル心もあつたように思うのです。日本を代表するような一流企業に勤めていて、子どもからみても仕事をバリバリしているのが伝わってくる。就職活動をしてみても、父のような会社に入るのも簡単ではない事も分かつてきて。でも自分で何か

を始めたら父を超えられるかも知れないという想いがありました。資格を取ると決めてからはダブルスクールがはじまり、大学卒業後はアルバイトしながら資格の学校に行き、試験を受けました。結果は、1年目不合格、2年目不合格、3年目不合格、試験は甘くはななく3年間落ち続けました。夜、学校が終わる帰り道では同じ年くらいのサラリーマンが飲み会終わりに赤ら顔で楽しそうに話している。いつ受かるかなんてまったく分からなく、将来への不安は日に日に大きくなっていきます。しつかりと働き、社会の一員となっている同じ年のサラリーマンと何者でもない私。カッコイイかどうかでいえば最低のカッコ悪い状態。元来負けず嫌いで決めたことはやりぬく性格ですが、この時ばかりは心が折れてしまい、資格試験をあきらめ就職することにしました。

大学卒業後3年が経っていましたので、新卒ではなく中途扱い。求人雑誌で会社を探し、就職しました。仕事内容は営業職。どんな営業かという、不動産を持つている方のところいき「アパートを建てませんか？」と提案する営業です。営業手法は、全然知らない人の家にいきなり行き、ピンポンする、いわゆる飛びこみ営業です。「アパート建てましょうー」と知らない人にいきなり言われても、普通は相手にはないですよ。だからそここから人間関係をつくっていくわけですが、これは簡単ではありません。この営業を1年間やったのですが、ほんとにきついな。まともに相手される事のほうが少ない。自分を否定されている感じがなく、これはちょっと自分がやりたい事じゃないと思ひ、もう一度資格試験に挑戦することにしました。本気でやろう。しかも1年だけ。それでダメ

だったらすばり諦める。司法書士の試験は何回でも受験できるのですが、自分の中で線を引きました。そこからは寝る時間以外はすべて勉強、1日15時間の勉強生活がはじまり1年後29歳でようやく合格しました。カッコよさを大事にしている私ですが、このときはばかりは髪もヒゲも伸び放題で服も毎日おなじ、浮浪者みたいな雰囲気です。かなりヤバかったですね。あの時の写真を残していたらいいネタになつたと思うのですが、写真を撮る気持ちの余裕すらもないくらい必死でした。最初の3年は今から振りかえってみれば本気ではありませんでした。本気の努力とはどの程度やりきらなといけないのかをこの時知りました。

開業2年目くらいから 仕事が出来なくなった。

司法書士は試験に受かると、一旦は事務所勤めしてから独立するか、そのままここで働き続けるかのどちらかです。私も大阪の司法書士法人に就職しました。大手事務所システムも出来上がっていたので、最初から最後まで1人がやるのではなく、業務を分担して進める感じでした。しかも効率性を高めるために同じパートをすることが多いのです。ずっとその事務所勤めするのはいいのですが、独立を考えている私には不向きです。小さな仕事でもいいから、最初から最後まで自分でやらないと力がつかない。そんな事を感じていたときに姫路の司法書士の先生と知り合い、働かせてもらうことになりました。その姫路の先生がとにかくやっかい案件が大好きな方で、次々と面倒くさい案件を持って来るのです。たとえば、都会なら家

を買う人の登記だけでいいのが、田舎では相続人が100名くらいいて、とにかくやたらとやっかい。でも先生、仕事は取ってくるけどあとは私に丸投げなのです。でもそのおかげで、ありとあらゆる案件に対応できる力がついて、2年経ったときには、もうどんな球がきても打てるという自信がついて、大阪で開業することになりました。2014年10月、32歳のときでした。

開業1年目は順調なスタートでした。独立したばかりで、ご祝儀的な仕事もいろいろあつて仕事に困ることは全然ありませんでした。でも2年目くらいからバタつと仕事が出来なくなつてしまつたのです。その要因はいくつかあるのですが、司法書士の仕事は単発が多く弁護士さんみたいな顧問契約はあまりありません。だから仕事があるときはあるけど、ないときは全然ない。積み上げ式の仕事ではないことが1つの要因です。そしてもう1つが集客。どんな球でも打てると思ひ独立したのですが、そもそも球が飛んで来ないと打つことはできません。姫路にいるときは先生が球を用意してくれていました。最初から最後まで1人で仕事をするとは、実は集客からはじまっている事を思ひ知らされました。最初はご祝儀的に仕事をもらえたとしても、それは長く続きません。選ばれるプロになつていかないと長い間仕事をする事はできないのです。資格を取れば仕事ができると思つていたのは幻想に過ぎませんでした。仕事がなく預金通帳から残高がみるみるうちに減つていき、不安だけが大きくなっていました。資格だけはあるから、事務所をたたみ他の事務所で働かせてもらったほうが楽かもと思ひ、実際に数社の面接を受けにいきました。

